事例No.	2646
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	特定非営利活動法人奥矢作森林塾

事例区分	地域活性化

タグ	・移住定住 ・地域運営組織 ・関係人口

事例種類	地域資源の活用

事例内容・タイトル

特定非営利活動法人奥矢作森林塾

出典

平成29年度ふるさとづくり大賞事例集

福井大学住環境計画研究室　　福井県福井市

概　　要



当研究室では、平成23年度に高齢者（家主）が居住する住宅の空き室を学生が借り、高齢者と学生が一定のルールのもと緩やかに支え合いながら自立した共同生活を送ることにより、双方が抱える様々な負担を軽減できる「異世代ホームシェア」を企画し、平成24年度から福井県社会福祉協議会と共同で、高齢者の孤独の解消、異世代との交流やつながりを促進することを目的として、高齢者と学生の異世代ホームシェアのためのマッチング（顔合わせ）や異世代交流事業等を実践している。

評価された点



・大学と社会福祉協議会の連携による好事例。高齢者と学生の異世代ホームシェアは他地域への展開が可能。
・高齢化と若者の流失対策として発想がユニーク。やれそうでやれない事業であり、このモデルは全国に展開できる汎用性がある。
・地域が高等教育機関と連携し新しい発想で課題解決を図った事例。大学の知見を活用し取り組んだ企画であり地域と連携した新しい発想である。高齢化社会が抱える問題と学生の人育てに資する取組であり、他の地域でも参考にできると思われる。
・多世代が交流し、お互いが無理なく本来の当り前の地域で暮らし続けるための仕組みづくりと自立性を高める暮らしの質を上げていくために「異世代ホームシェア」は現代の課題を解決するための多くのヒントを見出している。遠い身内より、近くの他人が見守り合うしくみは、他地域への交流事業の手法モデルとしても大切な視座を示している。
・確実に実績を残しているとは言い難いが、「異世代ホームシェア」の取組は、高齢化社会における切り口として続けて欲しい事業である。

特定非営利活動法人奥矢作森林塾　　岐阜県恵那市

概　　要



地域では、過疎・高齢化により空き家が増加するとともに人口が減少し、地域の元気を失いつつある。このため、もう一度、地域に人を取り戻すため空き家を地域の資源としてとらえ、地域外からの人材を移住に繋げようと、都市と農村の交流事業を開始した。その活動の中心である「古民家リフォーム塾」では、田舎暮らしを希望している地域外の方が多く参加し、地域住民との交流が進むことで、新しい風が吹き込み、地域住民主体の地域活性化につながっている。また、併せて、里山体験イベントやその他の交流事業を行うことにより、若者の移住も増えている。

評価された点



・移住者にとって、地域住民との交流をどう進めるのかが常に大きな課題となるが、古民家リフォーム塾を通じて心地よい交流が生みだされ、移住の促進につながっている。移住者が自治会長など地域活動の新たな担い手となるなど、地域住民との継続した関係性が移住の定着を支えているとみられ、同じような課題を抱える他の過疎地域にとっても、一つのモデルとなるのではないか。
・移住者とともに生活を共にして理解してもらう期間をもうけている。地域住民も受け入れ準備体制を整えていく期間となっており。地域に溶け込みやすく新たな担い手として積極的に地域活動に参加することにつながっていることが成果だと思う。